

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1)自分の学校が好きだと感じている生徒が、90%以上である。	生徒が自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出せるような活動を支援できるように、学校における指導体制を充実させるとともに、生徒が学校に対して好きだと感じられていない点を分析し、検討する。	B	B	B	2学期充実度アンケートにおいて「館林高校が好きですか?」という質問に対して、1年で82.1%、2年で87.2%、3年で95.7%の生徒が肯定的な回答であり、A評価には及ばなかった。否定的な意見にはトイシなどの施設設備や課題や授業などの学習に関するものが見られたので、今後さらに協議し、学習環境の改善に努めていきたい。	・学校の魅力は、設備面だけでなく、教職員や生徒の関わり、教育面から生まれる雰囲気や居心地のよさにあると考える。
		(2)「強歩大会」に参加して達成感が得られたと答えた生徒が80%以上である。	「強歩大会」開催に向けて職員と保護者の協働体制を築く。また、実施要項を検討し、体力のあるなしにかかわらず多くの生徒が満足できる大会を目指すとともに、生徒の体力向上を促す。	A	A	A	1学期充実度アンケートにおいて「強歩大会で達成感は得られましたか?」という質問に対して、1年で87.4%、2年で87.2%、3年で87.8%の生徒が肯定的な回答をしており、強歩大会において多くの生徒が達成感を得ている。生徒の体力の変化や気温等の環境の変化に配慮しつつ、さらに魅力ある行事となるよう努めていきたい。	・強歩大会は本校の伝統ある行事であり、生徒の成長や一体感の醸成につながっているため、今後も継続して実施してほしい。 ・生徒が積極的に参加したくなるような行事のさらなる充実が期待される。
		(3)部活動や特別活動に主体的に取り組み、充実感を持っている生徒が80%以上である。	部活動等の活動においては、人間力が向上できるように主体的な行動を促していくとともに、地域貢献ができるようなボランティア等を数多く積極的に生徒に紹介し活動への参加を促す。	A	A	A	2学期充実度アンケートでは、1年で96.5%、2年で91.3%、3年で96.9%の生徒が肯定的な回答であり、数値目標を達成する結果であった。部活動や特別活動は生徒の成長にとって重要な要素の一つであるので、今後も安全かつ充実した活動につながる方策を検討していきたい。	・本校で活躍している部活動やボランティア活動等について、生徒の主体的な取組を積極的に情報発信すると、学校の特色がより一層伝わると考える。
		(4)ボラリス(総合的な探究の時間)に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が60%以上である。	生徒が自らの問題意識から課題を考え、テーマを設定して、各自が動き出せるような活動を支援できるように、学校における指導体制を充実させる。それとともに、生徒が社会へと目を向け主体的に活動できる方法を分析し、検討する。	A	A	A	2学期充実度アンケートにおいて「進路実現に向けて、学力を高めたり、進路に関する情報を収集したり、ボラリス等での進路学習に積極的に取り組んだりするなど、自らを高める努力をしましたか?」という質問に対して、1年で76.9%、2年で82.6%、3年で92.6%の生徒が肯定的な回答であり、数値目標を達成する結果であった。生徒が「自分事化」し、物事を追究する姿勢を育て、そのことに自信を持って取り組めるよう、他校の事例に学び本校に合ったものを考えていきたい。	・探究活動で学んだ内容を校内で完結させるのではなく、日常生活や将来において活用できるようつながりを意識した取組が進むことを期待したい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(5)授業で、生徒が自ら考えたり決めたりする場面や他者と関わりながら学びを深める場面を設定して「学びの自分事化」を図り、「主体的・対話的で深い学び」の充実につなげようとしている教員が80%以上である。	学びのイノベーションリーダーによる研究成果についての研修や教員相互の授業参観等を実施して教員の理解を深め、実践力及び実施意欲の向上を図るとともに、校長の授業観察や、教員の自己評価及び生徒アンケート等により取組の状況を確認する。	B	A	B	授業改善自己評価アンケートにおいて、週に1度以上「『学びを自分事化』」することを意識して主体的な学習活動を行った教員が74.3%、「対話し学び合う学習活動を行った」教員77.2%であった。生徒の授業アンケートではそれぞれの活動があったと答えた割合が96.1%、87.9%となっており、主体的・対話的で深い学びを目指す学習活動が定着してきていると考えられる。	・アンケート結果や授業見学の様子から、生徒の学力や実態に応じた教材等を活用し、概ね適切な指導が行われていると考えられる。今後は、生徒が「学ぶ楽しさ」をより実感できる授業づくりに一層期待したい。
		(6)1、2年生で1年間に6冊以上の本を読んだ生徒が50%以上である。	座談会、読書会、講演会等の行事を開催して図書館の利用を促進し、図書館だよりや館報、オンラインでの蔵書検索により蔵書の紹介に努め、読書への関心を高めるとともに、各教科から読書の効用を説いてもらう。また、「読書感想文コンクール」への参加や「新書読破月間」の設定により論議的文章を読むきっかけとする。加えて、探究活動との連携をはかることで図書館利用に付加価値をつける。	C	C	C	2学期充実度アンケートにおいて、2冊以上本を読んだ生徒は1年で39.8%→31.8%、2年で43.6%→34.9%、3年は22.6%→20.4%で、昨年度を下回った。全体では29.2%にとどまった。一方で1冊本を読んだ生徒は全学年で昨年度を上回り、全体で34.3%だった。年3回実施の新書読破月間の設定に加え、探究活動が学術的な書籍を手に入るきっかけになっている。座談会・読書会・講演会は図書委員以外の生徒には波及効果は希薄。	・本校に限らず、情報社会の進展により読書量の減少が課題となっている。読書冊数を目標とするだけでなく、「読書を好きになる」ことを目標とした取組も検討してはどうか。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7)学習内容の定着及び進学を意識した学力向上のために、学習時間3000時間プロジェクトを実施し、課外授業への参加や課題等に取り組む時間、予習・復習などの家庭学習を含めたトータルでの授業外の学習が、1・2学年では1日平均2時間以上、3学年では1日平均3時間以上確保できている生徒が60%以上である。	生徒が主体的に授業以外の学習に取り組むように課題の量を検討するとともに、卒業生の体験談等を活用して自主学習の必要性や意義を理解させる。放課後の学習室の利用を推進するなど学習量の確保に努める。学習室の設備拡充及び拡大について生徒の周知をはかり、利用を促す。また、課外授業の運営や目的を理解させ、その参加を促す。さらに「学習量調査シート」を活用し、学習量の不足しがちな生徒への声かけ、面談を積極的に行って生徒の意欲を喚起する。加えて、スタディサプリを十分活用させる指導を行う。	D	D	D	全校集会時や各種進路行事において、進路指導専事から学習の意義や生徒の現状を話し、「学習はなぜ必要か」を生徒に説いてきた。また、学習室利用の推進や学習用資料(赤本や蛍光時代等)の充実、AIの導入を含めた環境面の整備を図った。しかし、現状では家庭学習平均が1・2年生では1.5時間、3年生では2.3時間と、進路指導部が期待する程には伸びなかった。	・学習時間を目標とする取組については、時間数そのものが目的と受け取れないよう、取組の意義や根拠を明確にし、具体的に示すことで、学習意欲の向上につながることを考える。
		(8)意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。	授業中に生徒が自主的に活動できるよう、考えさせたり学び合う場面を取り入れる。また、生徒の状況に応じた適切な課題を与えることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。	B	B	B	生徒自身は充実度アンケートにおいて「意欲的に学習に取り組めた」と自己評価している生徒が1年生74.6%、2年生85.5%、3年生87.0%となっているため、次年度は今年度よりも進路学習や家庭学習の意義を丁寧に説明し、生徒たち自身が納得して行動できるようにするとともに、全職員を上げて生徒が希望する進路実現を達成できるような体制を作っていく。	・アンケート結果から、上級学年になるほど学習に意欲的に取り組んでいる傾向が見られる。こうした状況を教職員間で共有し、共通理解のもとで指導に当たることが望ましい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9)登下校時にヘルメットを着用している生徒が50%以上である。	自転車点検時に購入実績を確認し、年2回のヘルメット着用状況調査を実施する。ヘルメットをカゴに入れたままであったり、ハンドルにぶら下げたりしていることが無いように登下校時の着用を促していく。	B	B	B	7月に実施した第1回ヘルメット着用調査(進路講演会で自転車での移動時に抜き打ちで実施)では、1年生48.6%、2年生44.1%、3年生36.8%で全校平均で43.3%であった。1月の第2回ヘルメット着用調査(始業式の日およびその翌日に抜き打ちで実施)では1年生46.3%、2年生42.3%、3年生44.0%、平均44.3%であった。所持しているにもかかわらず着用していない生徒が目立ったので、自転車で跨ったらヘルメットを着用し気を引き締めて漕ぎ出すのが当たり前となるよう指導を続けていきたい。	・高校生のヘルメット着用については、全体として十分に浸透しているとは言えない状況である。生徒への指導に加え、保護者に対する啓発も重要であると考えられる。
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	(10)学校全体でいじめ問題に取り組み、本校のいじめ防止基本方針を職員、保護者、生徒が100%理解している。	「学校生活に関するアンケート」「教育相談いじめアンケート」を定期的に実施して、いじめの早期発見・対応に努めるとともに、PTA資料・WEBページ等も活用して、「いじめ防止基本方針」を配布、周知し、いじめ発生への抑制に努める。	A	A	A	各学期の始めに実施する「いじめアンケート」、各学期の終わりに実施する「生活アンケート」、日々の心の状態を記録する「心の健康観察」等を通して、いじめの早期発見に努めることができた。また、発見後は、軽微なものでも「いじめ防止対策推進委員会」へ報告し、「いじめの認知」を行ったうえで、組織的な対応をとり、解決へ向けた取り組みへとつなげることができた。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11)望ましい起床時間、睡眠時間、就寝時間を意識した生活を送っている生徒が90%以上である。	勉強時間やモバイル注視時間の家庭での決まり事など、規則正しい生活習慣を送ることの大切さを伝える。	C	C	C	2学期の充実度アンケートで1年生64.2%、2年生75.0%、3年生81.5%であった。進路等を意識した規則正しい生活が上級生ではできている生徒が多いが、1年生は年々低下が著しい。スマートフォンの使用等が大きな要因と考えられる。	・心身の健康保持の観点から、睡眠の重要性について専門家による講演等を活用し、生徒の理解を深めるとともに、家庭との連携を図る取組が必要である。
		(12)毎日朝食を摂っている生徒が90%以上である。	朝食を摂ることの重要性を年間を通して継続的に伝える。生徒には保健委員会の活動や全校集会を通して呼びかけ、保護者には保健だより等を活用して連絡する。	A	A	A	昨年度アンケート結果91.8%だったが、今年度も91.8%と同様であった。(1学期92.1%、2学期91.5%)。これは多くの生徒が、部活動や進路実現のために学校生活を中心とした基本的な生活習慣が概ね身につけていると考えられる。より高い割合を目指し、生徒・保護者に啓発し、継続指導していきたい。	・食事に関する評価が高い点については、生徒本人の意識だけでなく、家庭の協力が大きく寄与していると考えられる。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(14)学校から提供される進路情報(進路だより、進路の手引き等)が役立っているとして自己評価する生徒が80%以上である。	各時期の学習のポイントや学習量調査の結果、模試結果に基づいた情報などを掲載し、生徒や保護者の進路意識を高め、授業や家庭学習で学習を積み重ねることの重要性について伝える。	A	A	A	充実度アンケートによると、学校から提供される進路情報は1年生77.5%、2年生83.7%、3年生88.3%が役立っていると回答しているため、次年度も継続して生徒の役に立つ紙面を計画していきたい。また、同アンケートにおいて「進路実現に向けて、自らを高める努力をしている」と自己評価している生徒が1年生76.9%、2年生82.6%、3年生92.6%となっているため、様々な進路学習や進路行事を「生徒に有意義なもの」にしていけるよう工夫していきたい。	・進路情報の提供等については、概ね適切に行われていると評価できる。
		(15)進路実現に向けて、自らを高める努力をしていると自己評価する生徒が90%以上である。	HR活動や進路行事を中心に、生徒が主体的に進路について考える態度を育成し、進路目標が明確になるよう、進路関係行事の精選・充実を図るとともに、保護者に対しても啓発活動を行う。	B	B	B	同アンケートにおいて「進路実現に向けて、自らを高める努力をしている」と自己評価している生徒が1年生76.9%、2年生82.6%、3年生92.7%となっているため、様々な進路学習や進路行事を「生徒に有意義なもの」にしていけるよう工夫していきたい。	・生徒が自ら進路目標を明確にし、その実現に向けて主体的に努力できるよう、今後も継続的かつ段階的な指導を行う必要がある。
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(16)PTA活動について理解している保護者が90%以上である。	PTA新聞等の発行を通じて、PTA活動に対する保護者の理解を深める。理解度の調査はGoogleフォームによるアンケートにて行い、回収率アップに努める。	A	A	A	PTA新聞を年数回、PTA通信を年10回以上発行することにより学校行事やPTA活動の様子を発信し、保護者に対して本校の活動を理解していただくことができた。PTA総会時に行ったPTAアンケート結果を見ても、PTA総会は本校のPTA活動を理解する機会になったと感じている保護者が大半を占めている。	・PTA活動に対する理解を示している割合が高い点は評価できる。今後は、総会等への参加率がさらに高まるような工夫が望まれる。
		(17)館林高校ホームページの全体の更新が年間60回以上(月平均5回以上)であり、常に最新かつ魅力的な情報発信に努めている。	各ページの責任者は1年に1回以上更新する(前年度の情報のまま放置することがないようにする)。なお、部活動や学校行事にかかわるものは、5~7月と10~11月を含む年2回以上更新する。	A	-	A	館林高校ホームページの全体更新回数は、12月時点で合計114回となり、年度当初に設定した目標値を上回る結果となった。更新回数の増加のみならず、部活動での取組や学校行事が実施された際には、その都度ホームページを更新するよう努め、常に最新の情報を発信することを心掛けてきた。また、今年度から運用を開始した館林高校公式インスタグラムによる情報発信についても、随時実施することができた。一方で、更新頻度が高い部活動がある一方、更新が十分とは言えない部活動や分掌も見られ、更新頻度にばらつきが生じている。各部活動および各分掌における情報発信の均衡を図ることが、次年度に向けた課題であると考えている。	・学校からの情報発信については、更新が積極的に行われている。今後は、閲覧数やアクセス数の増加につながる工夫が必要である。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(18)授業改善自己評価シート及び生徒アンケートにおいて、ICT機器を活用した授業の割合や実施状況について高評価をしている割合が80%以上である。	校内授業公開や授業改善のための研修等を活用して教員のICT機器活用技術の向上を図り、授業でChromebook等を効果的に活用する方法を充実させる。	C	C	C	Chromebookの活用について、活用頻度が高かった教諭が48.6%、効果的に活用した教諭が51.4%であり、生徒アンケートにおいては、Chromebookの活用があった授業が67.0%、活用の効果を感じた割合が67.2%であった。	・ICTを活用する内容と、紙媒体を活用する内容について適切に使い分けながら、効果的な活用を進めていくことが望ましい。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(19)ICTを活用した保護者通知や欠席等の連絡について、生徒・保護者の70%以上が満足している。	保護者に対し、くまスクールネット(GSN)メールやGoogleフォームの利用方法を集会等で周知し、職員の勤務時間外における業務の軽減を図る。	A	A	A	GSNメール及びGoogleフォーム利用に係るアンケート調査を行った結果、79.7%が「非常に満足している」または「満足している」という回答となり、高い評価を得ることが出来た。一方で、欠席連絡をGoogleフォームで行うことを知らなかったという回答もあり、保護者への周知については工夫していく必要があると考えられる。